

景観にさぐる中世：変貌する村の姿と荘園史研究

服部, 英雄
九州大学大学院比較社会文化研究院：教授：日本史

<https://hdl.handle.net/2324/21647>

出版情報：1995-12-20. 新人物往来社
バージョン：
権利関係：

景観にさぐる中世―変貌する村の姿と荘園史研究―
目次

はじめに 1

本書の構成（ガイドランス） 5

第I部 みそさく・ようじゃく 25

第一章 周防国仁保庄の荘園地名——現地景観が語る真実と文献史料が語る虚実—— 27

はじめに 27

一 平子氏館とその周辺 27

二 三浦文書・手継証文の史料批判 33

まとめ——浅地の養着と重嗣菩提寺長寿寺の立地が意味するもの—— 39

第二章 みそさく考 41

はじめに 41

一 上野国 43

1 群馬県邑楽郡大泉町下小泉の御正作

2 群馬県太田市強戸の三惣作

3 群馬県太田市沖之郷の三双作

4 栃木県足利市里矢場の御正作

二 下野国 55

5 栃木県小山市卒島の御正作

三 下総国 58

6 栃木県小山市上梁の味正作

四 常陸国 59

7 茨城県真壁郡関城町船玉のみそさく

8 茨城県常陸太田市幡のミノフ作（ミノフ柵）

第三章

地名による中世常陸国真壁郡長岡郷一带の景観復原………

78

五 甲斐国 74

15 山梨県中巨摩郡敷島町中下条の御証作

むすび―中間報告として― 75

9 茨城県常陸太田市瑞竜町小野のミソウ作

10 茨城県水戸市渡里町坪の味増作(ミゾウサク)

11 茨城県那珂郡大宮町西塩子のミソウ作

12 茨城県那珂郡大宮町下岩瀬の味相作

13 茨城県新治郡出島村牛渡上郷のミソザク

14 茨城県土浦市田村上郷の味惣作

はじめに 78

一 里の景観 79

1 地名の収集

2 地名の特色

3 長岡の水田

4 下小幡の水田

5 白井の水田

二 溜池の歴史 89

三 堀の内・前田と御正作(みそざく) 91

四 山の景観 93

1 焼畑地名・叶

2 焼畑地名が下々畑として検地帳に記載された意味

3 山の地名―クボ・ホッキリ―

第四章

遠江国初倉庄の荘園景観の復原——堤防の中のニシヨウダク——…………… 99

第五章

周防国与田保故地における用作——低地滞水域の開発をめぐって——…………… 104

はじめに 104

一 与田保故地に残る荘園関係地名 105

二 夕作はなぜこの地にあるのか 109

三 滞水地帯の開発——灸川と堀川—— 110

四 条里遺構との関連 113

五 地頭支配の展開 114

六 歴史資料としての地名の価値 115

第六章

防長のヨウジャク…………… 117

はじめに 117

一 周防のヨウジャク 118

1 山口県防府市西佐波令・中河原の用着

2 山口県防府市大崎・漆の用尺

3 山口県佐波郡徳地町鯖河内・安養地の用作

4 山口県山口市小鯖・毛割の幼若

5 山口県山口市平川・平井の用作

6 山口県山口市大内・奥小野の用作

7 山口県吉敷郡小郡町小郡上郷奥畑・木船の用尺

8 山口県熊毛郡田布施町宿井・石ノ口の用作

9 山口県熊毛郡平生町大野・中村の用作

10 山口県熊毛郡平生町尾国の用作

二 長門のヨウジャク 138

11 山口県豊浦郡菊川町上保木の用借

12 山口県豊浦郡菊川町下岡枝・茶屋の用借

13 山口県豊浦郡菊川町日新・行政の用借

14 山口県豊浦郡菊川町大字吉賀・防迫の用借

15 山口県豊浦郡豊北町粟野・郷上の用借

16 山口県豊浦郡豊浦町厚母郷の用借

17 山口県厚狭郡山陽町山野井・栗田の用尺

18 山口県厚狭郡楠町舟木・伏付の用尺

19 山口県宇部市東須恵・中野の用尺

20 山口県宇部市如意寺・渡瀬の用尺

21 山口県阿武郡阿東町生雲東分・持坂西の用尺

22 山口県美禰郡秋芳町嘉万・栢木の用尺

三 用作田の形態―まとめにかえて― 157

第七章

筑後川下流域・クリーク地帯における荘園景観と淡水灌漑

――筑後国三潴庄と肥前国神崎庄――

はじめに 166

一 三潴庄荒木村の中世耕地景観と大井手（非クリーク地帯） 168

1 中世地名と灌漑系統

2 広川流域の用水の歴史

二 三潴町田川の用尺 176

三 大木町奥牟田の立野の用尺 180

四 城島町檀津諏訪の用尺 182

五 佐賀県神埼郡千代田町用尺 186

第II部 地名の史料学

はじめに

第一章 明治地租改正と小字の決定——北浦定政の業績によせて——

第二章 播磨国鶴庄の嘉曆絵図と小地名

第三章 近江国邇保庄図にみえる小地名の検討

第四章 山城国乙訓郡（小塩庄）条里図による小地名変遷の検討

——条里図に対する史料批判——

第五章 乙訓郡条里地域における小地名収集とその史料的价值

——あわせて久我庄等の荘園景観を復原する——

一 通称地名（旧小字）の収集 245

二 条里制との関連から 247

三 久我庄故地における景観復原と地名 250

四 その他の乙訓郡域の歴史地名 254

1 中世神崎庄における干潟の新田開発

2 筑後川河口津である神崎庄津・蒲田津と用作

六 クリーク景観はいつ形成されたのか——景観の遡及—— 191

1 八院・白垣の現景観

2 揚水器具の発達史

3 アジア各地のデルタ地帯の淡水灌漑

七 中世文書からみた筑後川下流域——松浦山代文書にみる白垣村と網縄池—— 200

八 筑後川下流域の中世景観とその形成——むすびにかえて—— 204

211

213

216

225

232

238

245

第六章 大和盆地における小地名の変遷……………257

第七章 荘園地名のうち、名地名の意味するもの……………260

第八章 能登国万行保・奥原保故地における中世の村の復原……………264

——消された小字を甦らせる——

一 万行保 265

二 奥原保 268

第九章 肥前国神崎庄故地における条里村落と地名……………272

——里界により決定される村——

残された課題……………285

第III部 荘園景観の遡及的復原法……………291

第一章 荘園景観の遡及的復原法……………293

はじめに 293

一 現地調査はなぜ必要か―播磨国福井庄樋守・肥後国八代庄井樋を素材として―……………294

1 播磨国福井庄の汐浜干拓と樋守

2 肥後国八代庄八千把村における汐浜干拓と井樋

二 荘園景観の遡及的復原法―播磨国大部庄を素材として―……………310

1 準備作業

2 近世景観の措定

3 中世的景観の復原

三 集落形態の検討と考古学……………325

1 散村から集村へ

2 古文書に記されなかった屋敷―考古学の成果―

四 古道を歩む人々 328

第二章 備後国地毗庄の復原的研究

一 地毗庄の山内首藤氏 335

はじめに

1 鎌倉期の山内首藤氏

2 南北朝期の山内一族の動向―貞和七年一族一揆―

二 地毗庄本郷の景観復原 351

1 滑良谷

2 藤木谷ほか

3 高山門田とその周辺

4 大池(おうのゝ池)・別所池ほか

5 田原溝

6 田原土居

7 地頭館と甲山城

8 残された課題

三 質入担保となった備後国地毗庄 383

はじめに

1 研究史とその問題点―文応二年千光寺領目録の疑点―

2 領家方史料について

3 地毗庄荘園領主とその変遷

4 借錢による領主の移動―文書の伝来―

むすび

第三章 安芸国三入庄の復原的研究

第四章 伯耆国国延保の復原的研究

はじめに 416

416

404

335

第五章

豊前国金田庄故地における中世景観の復原

——南北朝期の名の存在形態——

- 一 醍醐寺蓮藏院領国延保の沿革 416
 - 二 貞和五年下地中分 420
 - 三 貞和二年中分取帳錯簡の修正 421
 - 四 国延保の耕地景観と名の復原 428
- はじめに 436
- 一 金田庄の沿革 437
 - 1 金田庄の初見史料
 - 2 金田庄の伝領
 - 3 金田庄の正平十一〜二年
 - 二 金田村田島坪付類の整理と復原 439
 - 三 金田村故地における条里制耕地の復原 448
 - 1 中元寺川左岸における条里制
 - 2 彦山川右岸、弁城・迫・宝珠地区における条里制
 - 3 赤池町市津、石松周辺の条里
 - 4 上金田・東金田の条里制
 - 5 金田・宝見・黒尾の条里制
 - 四 金田村における名と耕地 461
 - ア 四郎丸名
 - イ 南木久永名
 - ウ 宮得名
 - エ 石松名・土内名
 - オ 久永名

第六章

肥前国長嶋庄と橘薩摩一族……………

はじめに 47^o

一 長嶋庄の成立—根本開発領主の群像— 47^I

- 1 権門領(前段階)長嶋庄の寄進主体
- 2 蓮花王院領長嶋庄の成立

二 長嶋庄入部までの橘薩摩氏 48^I

- 1 出自
- 2 御家人橘薩摩公業

三 条里制耕地の復原作業 48⁴

- 1 坪並の復原
- 2 条里(里名)の復原

四 花嶋村地頭の所領構成—名と十楽浮田— 49⁸

五 地頭橘薩摩一族による村々の支配 50⁸

- 1 公員流
- 2 公助流

カ 黒王丸名

キ 用王丸名

ク 得松名

ケ 末里名

コ 成松名

サ 正弘名

シ 直方村

小括と残された問題 466

むすび—名と勸農— 468

六 村立事―長嶋庄における南北朝の動乱― 518

七 文書の伝来―むすびに代えて― 528

残された課題…………… 532

第IV部 中世城館の研究視角…………… 535

第一章 中世城館論―近世城郭への連続と非連続―…………… 537

一 中世城館の特質 537

二 中世城館の機能 540

A 交通との関係

B 集落との関係

C 中世城館の日常的な支配機能

D 軍事面からの考察

第二章 飛脚箒によせて…………… 569

一 のろしマラソン―飛脚箒― 569

二 近世の「のろし」史料 572

1 萩藩の場合

2 岡山藩の場合

3 長崎周辺の烽火台

4 福岡藩の場合

5 佐賀藩の場合―江戸へ廿四時―

6 天草の場合

7 薩摩藩の場合

8 土佐藩の場合

9 和歌山(紀州)藩の場合

あとがき	603
成稿の過程	597
三 飛脚旗	588
四 城館と鐘・太鼓	590
むすび	595
10 弘前藩の場合	
11 西蝦夷地の場合	
12 琉球王国の場合	